



信州「知の森」づくり  
PLAN“the FIRST”2011-2013  
—持続可能な明日のために—

## 信州大学の基本理念

- ─ 信州大学は、信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。
- ─ 信州大学は、その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。
- ─ 信州大学は、世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。
- ─ 信州大学は、自立した個性を大切にします。
- ─ 信州大学で学び、研究する我々は、その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。

## 信州大学の目標

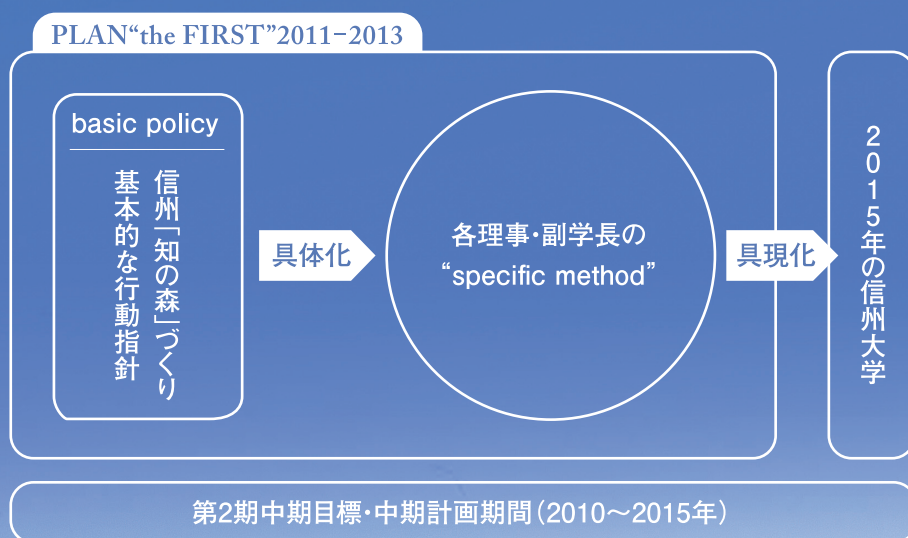
- |      |  |
|------|--|
| 教 育  | かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。 |
| 研 究  | 人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展をめざした独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。                |
| 地域貢献 | 信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。                  |
| 国際交流 | 諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。  |

(基本理念・目標 2001年10月制定)

# PLAN“the FIRST”2011-2013の趣旨

PLAN“the FIRST”2011-2013(the Forest of Intellectual Resources for Sustainable Tomorrow)は、信州「知の森」づくりのための基本的な行動指針(basic policy)とそれを実現するための具体的な手法(specific method)によって構成されています。

PLAN“the FIRST”は、信州大学が次のステージにワンランクアップすることを目標とし、2011年から2013年の間に、学長の主導のもと各理事・副学長を中心に、すべての分野で構成員が一丸となって取り組むプランです。



PLAN“the FIRST”

the  
Forest of  
Intellectual  
Resources for  
Sustainable  
Tomorrow



# 信州「知の森」づくり PLAN“the FIRST”2011-2013

—持続可能な明日のために—

## 公表にあたって

先人の弛まぬ努力により継承されてきた人類知(=学問)の森は大きくまた深い。この知の森づくりは、大学における教育と研究とによって行われ、大学人に課せられた大きな使命であります。

信州大学は、人と地球の持続可能な明日を実現するために、「知の継承(教育)と新しい知の創造(研究)」の拠点となる信州「知の森」を豊かに大きく育てたいと考えています。

PLAN“the FIRST”の**FIRST**は、信州大学が構築を目指す「知の森:the Forest of Intellectual Resources for Sustainable Tomorrow」に因むプラン名です。信州大学にとって、また構成員の皆様にとって「第一番目のもの」「最も重要なもの」であって欲しいとの期待を込めました。

さて、信州大学では2008年と2009年にVision 2015とAction Planを策定しました。信州大学の「理念と目標」に基づく大学の未来像とそのための行動計画であり、信州大学が将来目指すべき理想を高く掲げたビジョンであります。現在推進している第2期中期目標・中期計画は、このビジョンを高い目標とし、2010年から2015年までの6年間に信州大学がなすべき教育・研究・社会貢献などの業務達成目標とそのための実施計画という現実的な対応に落とし込んだものとなっています。

信州大学をより高く、より良い方向に導くためには、第2期中期目標・中期計画に加えて、大学運営の基本構想を明らかにしなければなりません。加えて、わが国が直面している厳しい困難を克服し、卓越した人材の育成など国立大学に課せられた責務を大学の機能強化で実現するための長期的かつ戦略的な視点に立ったプランが必要なことは論を俟ちません。

ここに公表する信州「知の森」づくり PLAN“the FIRST”2011-2013—持続可能な明日のために—は、学長任期中の大学運営に関する基本的な取り組み(basic approach)であります。

プランでは、信州「知の森」づくりのための基本的な行動指針(basic policy)とそれを実現するための具体的な手法(specific method)を述べています。信州大学が次のステージにワンランクアップすることを目標とし、学長の主導のもと各理事・副学長を中心に、すべての分野で構成員が一丸となって取り組むプランであります。

PLAN“the FIRST”が、明日のための信州「知の森」づくりの確固たる道筋となり、信州大学が本学構成員の皆様と共に、その道を進むことを強く期待しています。

信州大学長 **山沢清人**

Kiyohito Yamasawa



# 信州「知の森」づくりのための 基本的な行動指針

Basic Policy of PLAN“the FIRST”2011-2013

## 1. 信州「知の森」の育成と発展

学生が生き生きと学び、教職員が教育、研究そして社会貢献に専念できる“まなびや”を構築し、「知の継承(教育)と新しい知の創造(研究)」に力を注ぎ、風通しがよく、透明性の高い、大地にしっかりと根を張る信州「知の森」を育てます。

## 2. 人と自然を愛する心豊かな学生

学生には将来、グローバル社会で指導的役割を果たせるように、高度な専門的知識を修得させます。さらに信州の自然、文化などをいつくしむなかで環境マインドを醸成するとともに、地域の人々とのふれあいを通して「自ら考え学び、問題を解決する力＝人間力」を鍛え、優しさと逞しさを兼ね備えた人間性豊かな人材を養成します。

## 3. 人間性と意欲に富む卓越した教員

教員は、一人一人が豊かな人間性を持って学生との相互信頼関係を構築するとともに、大学の社会的責務を自覚し、学内・地域はもとより国内外の様々な機関との連携・協力のもとで、未来の創造に向かって挑戦していきます。また、自然との共存のもとに、人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を広く発信することにより、地域と世界の発展に貢献します。

## 4. 豊かな経験と専門性を併せ持つ職員

全ての職員は、大学に課された使命を十分に理解し、大学全体を見渡すことができる幅広い知識と経験を身につけるとともに、常に相手を思いやる気持ちを大切に、高い倫理観に基づいて業務に携わるように努めます。さらに、前例に囚われず柔軟な発想で新しい課題に積極的に取り組み、自己研鑽と創意工夫によって専門性を深めることを目指します。

## 5. 安全かつ安心な地域社会の構築

信州大学は、総合大学である利点を活かして、人文、社会、自然の諸科学の有機的な知の融合により、安全かつ安心な社会の構築に資する学術研究を推進するとともに、これらの分野の卓越した人材の育成に努めます。また、学生、教職員はもとより学外の方々も安心して学び、集えるキャンパス環境を整備するとともに、地域社会の医療を担い、防災研究などに力を注ぎ、安全・安心の拠点としての機能を果たします。

## 6. スピーディで戦略的な経営

学長のリーダーシップのもと、大学の意思決定過程の迅速化と効率化を進めるとともに、経営資源を戦略的に運用し、中長期的な展望に立った経営を行います。また、社会の変化に柔軟に対応できるような教育研究理念をしっかりと保持した上で、組織の効率的・効果的な運営の実現を目指します。



松本キャンパス西門から続く並木路。1年次は全学部生がこのキャンパスで学ぶ。

コマクサ

花の形が馬(駒)に似ていることが名前の由来で、花の美しさや他の植物が育たない過酷な環境で生育することなどから、高山植物の女王といわれています。信州を象徴する花で、本学の学章のモチーフとなっています。



◆信州「知の森」づくり  
PLAN“the FIRST”2011-2013

持続可能な明日のために  
“specific method”

|           |       |                                  |          |
|-----------|-------|----------------------------------|----------|
| <b>01</b> | 赤羽 貞幸 | 理事(教学/サービス/部局間調整担当)・副学長 ……………    | p08 - 09 |
| <b>02</b> | 三浦 義正 | 理事(研究/財務/産学官連携/国際交流担当)・副学長 …………… | p10 - 11 |
| <b>03</b> | 渡邊 裕  | 理事(経営企画/総務/人事労務担当)・副学長 ……………     | p12 - 13 |
| <b>04</b> | 天野 直二 | 理事(病院担当)・副学長(保健管理担当)・医学部附属病院長 …… | p14 - 15 |
| <b>05</b> | 鈴木 隆  | 理事(環境施設/企画調整担当) ……………            | p16 - 17 |
| <b>06</b> | 神澤 鋭二 | 理事(特命戦略担当)・情報戦略推進本部長 ……………       | p18 - 19 |
| <b>07</b> | 二宮 晏  | 副学長(点検評価/全学教育機構担当) ……………         | p20 - 21 |
| <b>08</b> | 小池 健一 | 副学長(教育・学生支援担当)・副理事・高等教育研究センター長 … | p22 - 23 |
| <b>09</b> | 久保 恵嗣 | 副学長(企画総括担当) ……………                | p24 - 25 |
| <b>10</b> | 笹本 正治 | 副学長(広報/情報担当)・附属図書館長 ……………        | p26 - 27 |



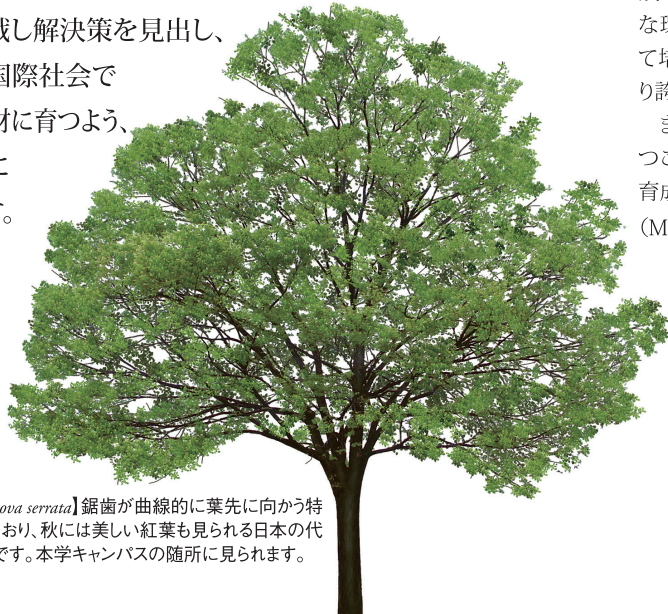
理事  
(教学／服務／部局間調整担当)

副学長

赤羽 貞幸

Sadayuki Akahane

教学/服務/部局間調整担当理事として、  
卓越した専門教育を教授する教育実施体制を整備し、  
信州「知の森」での学びを通して、社会の様々な課題に  
積極的に挑戦し解決策を見出し、  
地域社会や国際社会で  
活躍できる人材に育つよう、  
学生の成長に  
力を注ぎます。



【ケヤキ：学名 *Zelkova serrata*】鋸歯が曲線的に葉先に向かう特徴的な葉の形をしており、秋には美しい紅葉も見られる日本の代表的な樹木の一つです。本学キャンパスの随所に見られます。

## 知の森での 豊かな学びと質保証を

学生は、教育の質が保証された知の森で、人類知の継承や人間力の醸成によって、科学的な思考力や社会人としての基礎力をつけ、未来社会を切り開く能力を備えた有為な人材に育っていきます。

人類知の継承は、アドミッションポリシーに基づく入学生が、知の森の道案内であるカリキュラムによって育てられ、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成する過程で行われます。

社会の中で自立した一人の人間として力強く生きていくための人間力は、大学という知の森の中で、人との関わりや、自主的な活動によって培われ育ちます。

(Method 1, Method 2, Method 3)

## グローバルリーダーを 輩出する大学院教育

総合大学の特色を活かした大学院教育では、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値社会を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成で社会に大きく貢献します。

(Method 4)

## 地域における高等教育の拠点

県内に分散する5キャンパスの地理的条件を活かし、総合大学の特色を強みに地域拠点大学として地域の学術・文化の発展に寄与します。地域に広く教育の門戸を開き、地域の種々の要請に応え、頼られる高等教育機関を目指します。

(Method 5)

## 信州で学んだ証を 誇りと自信に

多感な大学時代を信州の地で過ごした学生に強く残るものは何でしょうか。恵まれた信州の自然・文化的な環境の中で豊かな風土を活かした教育活動によって培われる資質、知識や能力は、信州で学んだ証となり誇りと自信となります。

また、人類社会が直面している環境問題に関心をもちつことは大切です。本学の特色である環境マインドの育成も、信州大学で学んだ証となるでしょう。

(Method 6, Method 7)

### 【Method 1】

## 確かな成長を保証

知の森を活用し学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、学部ではカリキュラム・マップ、大学院では履修プロセス概念図を整備します。これに基づく教育活動を展開することで、学生の確かな成長を保証します。

### 【Method 2】

## 教育の質保証の推進

GPA制度などを活用し、学生の学習意欲の向上を図り、教員の成績評価基準の透明性を高め、厳格な成績評価を実施します。また、e-Learningシステムや遠隔授業システムなどICT(情報通信技術)も活用し教育の質保証を推進します。

### 【Method 3】

## 人間力の醸成を支援

ゼミなどの少人数授業の充実を図るとともに、インターンシップの充実や社会的・職業的自立につながる就業力を身に付ける事業を推進します。

また、サークルボックスや寮の整備・充実を行い、課外活動や寮生活を支援します。本学では多くの学生が課外活動に参加し、オリンピックに出場するなど輝かしい成果をあげています。体力・気力あふれる学生時代における節度ある自主的活動を推奨し、人間力の醸成を支援します。

### 【Method 4】

## グローバルな高度専門職業人の養成

大学院での高度な研究を通して、幅広い教養を備えた高度専門職業人や先端的研究を推進する人材養成を行います。総合工学系研究科では多くの特異な学際的な分野をもち、先端的分野では世界のリーダーを育てるリーディング大学院を目指します。

### 【Method 5】

## 地域社会への教育貢献の推進

総合大学として広い分野の人材を擁し、各種の人材育成、市民開放授業、公開講座、放送公開講座、出前講座などの実践によって、5キャンパスを拠点に県全域の高等教育の充実を推進します。

### 【Method 6】

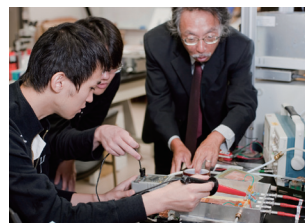
## 信州の風土を活かした学び

恵まれた信州の自然、歴史、文化を素材とした授業、フィールドを活かした体験型教育の学習機会を増やし、冬季スポーツや山岳地域での実習など信州ならではの地域性や季節性に富むユニークな教育活動を展開します。

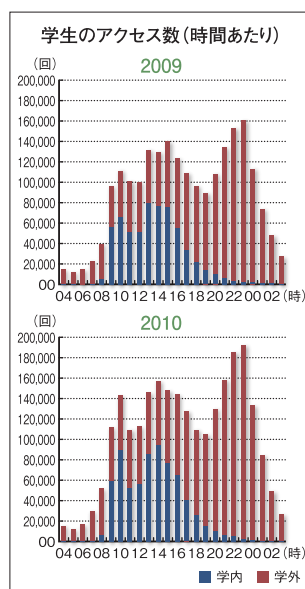
### 【Method 7】

## 環境マインドの育成を実践

環境マインド推進センターの活動を通して広く環境問題や防災問題への意識を高めます。学部ごとの特色ある環境マインド育成カリキュラムを整備し、「地球環境に関する理解」「環境基礎力」「環境実践力」を習得できるようにします。これによって、環境マインドをもった卒業生を広い分野に輩出し、環境社会づくりに貢献します。



大学院では最先端の研究を推進する研究者が、世界のリーダーを育てるべく、質の高い教育を実施しています。



e-Learningシステムを活用し、質の高い授業を常に提供する体制を整備しており、年々高い利用状況となっています。



県内に分散するキャンパスの地理的条件を補完すべく、遠隔授業システムを活用した授業を推進しています。



理事  
(研究／財務／産学官連携／国際交流担当)  
副学長

三浦 義正  
Yoshimasa Miura

優れた研究成果を生み、併せて高度人材を育成し、社会に還元していくことが本学にとって最も重要なミッションであります。それらの実現手段として、競争的研究資金の獲得や産学官連携を積極的に推進することによって、財政の質的充実を図ります。海外との人材交流も活性化します。



【ユリノキ：学名 *Liriodendron tulipifera*】淡い黄緑とオレンジの可憐な花を咲かせる木です。南箕輪キャンパスのユリノキ並木では、秋に見事な黄葉を見ることができます。

## 卓越した研究成果によりワンランクアップを図ります

本学の世界的研究成果であるカーボンナノチューブ(CNT)やオンリーワン学部としての繊維技術を更に発展強化させるために、卓越研究拠点の整備や重点大型研究プロジェクトの推進など、メリハリのある研究支援により一層の研究高度化を図ります。

(Method 1, Method 2)

## 競争的研究資金の確保とメリハリの利いた財務運用を行います

競争的研究資金や基金などによる教育・研究資金の確保と共に、財務編成・規模の大幅なスリム化による質的充実を図り、財務規律の確保にも努めます。また、限られた資源は競争力強化の観点から戦略的に配分するなど、メリハリの利いた財務運営を推進します。

(Method 2, Method 3)

## 産学連携による知の共創を進めます

信州地域における最大の知の拠点(シンクタンク)として、本学は総合大学としての知力を結集して多様な社会貢献を果たし、地域イノベーション創出に貢献します。

(Method 4, Method 5)

## 多文化が共生するキャンパス形成を目指します

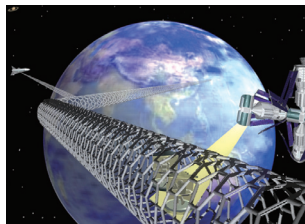
まず、国際共同研究に基づく大学間交流の活性化を図ります。さらに、海外への留学生数を増加させる施策を推進するとともに、様々な国からの留学生や研究者が快適に勉学し生活できるキャンパスを地域の皆様と共に築きます。

(Method 6, Method 7)

### 【Method 1】

## 世界的研究拠点の形成

エキゾチック・ナノカーボン(ENCs)の創成と応用や、国際ファイバー工学教育研究拠点などにおける世界的研究成果を積極的に発信することにより、多くの優れた研究者や学生が世界から集い、先進的な研究が推進できる環境を整え、更なる世界的研究成果の創成と蓄積を目指します。



エキゾチック・ナノカーボン(ENCs)など、卓越した先端ナノ材料技術によって、世界の研究を牽引しています。写真は可能性の象徴ともいべき宇宙エレベーター。

### 【Method 2】

## RAによる研究企画の推進

先端医療、環境、山岳科学など重点研究分野を中心にリサーチ・アドミニストレーター(RA)による全学的な研究推進方針の企画や体制整備など、提案力の向上と的確な研究マネジメントにより効果的に研究を推進するとともに、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に努めます。

また、次代を担う若手研究者への支援を通して、多様な研究の芽を育てます。

### 【Method 3】

## 信州「知の森」基金の充実

教育環境の整備や学生支援をゆとりを持って継続的に行うために、信州「知の森」基金を同窓生、学生教職員だけでなく広く社会に募り、大学経営基盤の安定化を図ります。



食糧・環境問題解決の糸口を探る先進植物工場研究教育センター(SU-PLAF)開所式見学会の様子。

### 【Method 4】

## 産学官連携の推進

これまでのナノテクIT技術を中心とした産学官連携に加えて、グリーンイノベーションの推進や、医工農連携によるメディカル産業創出を新たな連携の柱に据え、新産業の創出と国際競争力強化に貢献します。

### 【Method 5】

## 地域連携拠点の活用

本学が分散キャンパスであることを有効に利用するために、各地キャンパスの連携交流拠点(ハブ)を整備します。更に、技術相談や人材育成、機器の共同利用など、様々な地域貢献責務を果たします。



留学生と地域住民の交流を推進するなど、留学生が快適に勉学できる環境を整えます。

### 【Method 6】

## 国際共同研究の推進

先進的な共同研究に基づく連携校を増やし、国際共同研究や研究者・学生の交流数の増加を目指します。そのための支援スタッフ体制強化や受け入れ環境を整備します。

### 【Method 7】

## 国際交流の促進

海外への留学者数を増加させる施策として、短期留学や語学研修の支援制度を整えます。また、留学生による国際同窓会組織を整備し、海外における信大応援団との協力関係を強化します。



理事  
(経営企画／総務／人事労務担当)  
副学長

渡邊 裕  
Hiroshi Watanabe

中長期的な展望に立った経営・事業基盤の強化に尽力します。  
カネ・モノ・情報も重要ですが、ヒトづくりも重要なことはいまでもありません。  
大学に集うヒトの現在と未来を大切に大学づくりに配意します。



【ヒマラヤスギ：学名 *Cedrus deodara*】スギよりはマツに近い種類で、大きな松ぼっくりを作ります。旧制松本高等学校の大本が有名ですが、本学キャンパス内にも多く生育しています。

## 困難期を拓くダイナミックな事業戦略の刷新を

国立大学法人は未曾有の財政困難期に入ってきました。このような時こそ、従来の単年度主義的事業(計画)を刷新し、中長期的展望に基づく戦略的な事業計画、研究・活動計画を立て、これを実行することが急務です。  
(Method 1)

## 大学の社会的責任とガバナンス強化

時代は大学の個性・特色を発揮し、これを積極的に公表(アピール)することを求めています。また、各ステークホルダーを意識し、その要請に大学の叡智で応えていくこと(大学の社会的責任:USR)も求められています。  
これらの要望に応えるためにも、大学のガバナンスの強化、危機対応能力の強化、コンプライアンス体制の充実、ディスクロージャーの推進に取り組みます。  
(Method 2, Method 3, Method 4)

## 大胆な組織再編

将来的に、現状の組織を維持し続けることは困難になるうとしています。増大した業務の大胆な削減や組織のスリム化・再編のために、教職員の叡智の結集が求められます。  
(Method 5)

## 満足感ある人事政策の実施

人事制度・人件費は、国の施策の制約の下にありますが、これを克服し、本学教職員として高い満足感を持つことができる人事・服務政策を構築し、人材育成を推進します。  
(Method 6, Method 7, Method 8)

【Method 1】

信大 事業計画策

中期目標・中期計画(年度計画)の上(2階)に事業計画を乗せ、経営資源(カネ・ヒト・モノ・情報)を戦略化(選択と集中)し、PDCAサイクルを推進して、法人・部局の経営実績(事業成果)向上を図ります。

【Method 2】

ガバナンス強化策

学長のリーダーシップの下、戦略企画会議を中心に、学内意思決定過程の迅速化・効率化を推進するなど、ガバナンスの強化に取り組めます。

【Method 3】

コンプライアンスと危機管理

危機対応能力(予防体制、質の高い処理マニュアルの整備・更新)の高度化、法務・コンプライアンス体制(事故・訴訟処理能力、学内コンプライアンス意識・研修)の充実などを図ります。

【Method 4】

ディスクロージャーの推進

国・国民・地域社会・住民の皆様に対する説明責任を十分果たすために、諸種の情報提供・情報開示を推進します。

【Method 5】

業務のスクラップ&ビルド策

学長のリーダーシップの下、戦略企画会議を中心に、教職員の叡智を結集して、業務や組織のスクラップ&ビルドに取り組めます。

【Method 6】

人材育成策の充実

職員の能力評価制度、人事異動ルール、キャリア計画などを総合化した、優れた教職員を育てる人材育成策を実施します。また、教員人件費削減の下でも、全学的視点に立った教員の有効な採用、重点配置、育成策を検討・実施します。

【Method 7】

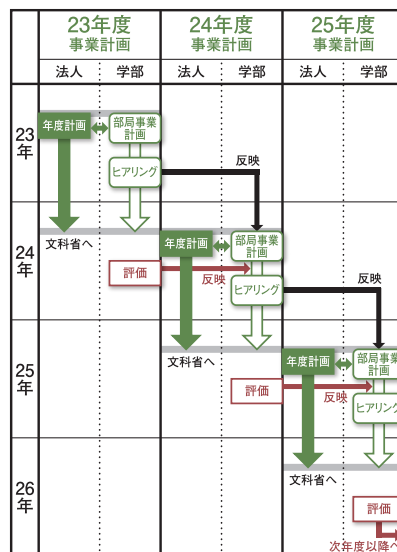
男女共同参画政策の推進

男女共同参画推進委員会を設置し、女性研究者の支援や女性管理職の積極的な登用(ポジティブ・アクション)、ワーク・ライフ・バランス(WLB)策を推進します。研修などを通してハラスメント防止意識の質の向上も図ります。

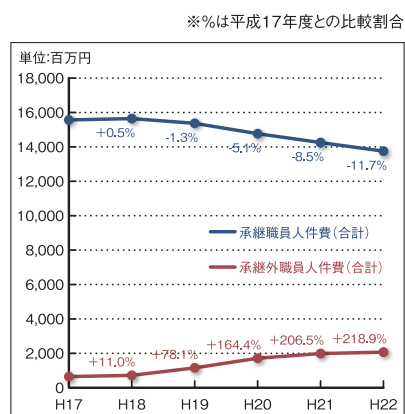
【Method 8】

長時間勤務の大幅削減

勤務時間管理の徹底、男性を含めた育児休暇の取得促進、ワーク・ライフ・バランス意識向上に取り組む、長時間勤務の大幅削減に努めます。



中長期的展望に基づいた、PDCAサイクルを推進しています。



承継職員の削減分を承継外職員で補っている状態となっています。



職員研修の様子。信州大学の将来を担う職員一人一人が困難を乗り越える力をも身につけます。



理事  
(病院担当)  
副学長  
(保健管理担当)  
医学部附属病院長

天野 直二  
Naoji Amano

大学病院の特徴を最大限に活かした  
臨床研究の成果を世界に発信するとともに、  
地域に提供します。  
また、命の尊さと心身の痛みがわかる  
人間性豊かな医療人を育成します。  
本学の医療安全体制を  
更に推進します。



【イチョウ：学名 *Ginkgo biloba*】美しい紅葉と特徴的な葉が有名なイチョウは長寿でも知られており、全学に植えられています。

## 近未来医療を世界に発信

近未来の社会ニーズを先取りした医療(近未来医療)を提供すべく、基礎医学研究との連携の下に大学病院の特徴を最大限に活かした臨床研究を推進し、成果を世界に発信します。

(Method 1, Method 2, Method 3)

## 地域医療水準の 向上を目指して!

最先端医療を地域に提供し、地域医療の再生と活性化に寄与するため、本院を中心とした地域の医療機関の連携(病病連携、病診連携など)の拡大と充実、がん診療連携拠点病院としてのがん診療の充実、高度救命救急センターを中心とした救急・災害医療の充実などを推進します。

(Method 4, Method 5)

## 人材こそ、宝!

命の尊さと心身の痛みがわかる人間性豊かな医療人を育成し、魅力ある教育プログラムで一貫した教育の充実を図ります。また、医師だけでなくすべての職種において、将来を見据えた人材の確保や育成を考えていきます。

(Method 6, Method 7, Method 8)

## 学生・教職員の健康や 現場の快適な環境の 維持と増進!

本学の学生・教職員の安全と心身の健康を守り、快適で健全な修学・就業支援を確保するため、総合健康安全センターを中心にして、積極的かつ発展的に保健衛生活動と健康づくりに取り組みます。

(Method 9)

### 【Method 1】

## 近未来医療を推進

近未来医療推進センターを中心に、がん医療、再生医療、生活習慣病の予防などの近未来医療を推進します。そのために、センター各部門の活性化に努めます。

### 【Method 2】

## 教職員による近未来医療プロジェクトの推進

教職員自らの有意義な発想や各部門の中期計画などから、本院にとって大きな特色となるような教育・研究・診療のプロジェクトを推進します。

### 【Method 3】

## 医療機器の計画的な整備

近未来医療の提供を推進するために、病院基盤設備のマスタープランを充実させ、医療機器の整備、更新を図ります。

### 【Method 4】

## 地域医療ネットワークの高度化

病病連携や病診連携による良質で効率的な医療を推進させるために、電子カルテを活用した県内医療機関のネットワーク化を推進します。

### 【Method 5】

## ドクターヘリと地域医療の活性化

ドクターヘリの効率的な運用を図り、最先端医療を長野県全体に提供します。また、県内医療機関と連携して研修・共同研究・人事交流などを進め、地域医療を活性化します。

### 【Method 6】

## 健全な病院経営

働く一人一人の向上心を尊重し、より良い医療環境の保全とその質の向上、さらに本院の将来計画、機能強化を図るために、経営企画会議を設置し、経営状況を正確に分析し、中長期的な展望の下に健全な病院経営を推進します。

### 【Method 7】

## 研修体制の整備

医療の高度化に対応する人材を育成するために、経費支援を含めた研修体制の充実を図ります。

### 【Method 8】

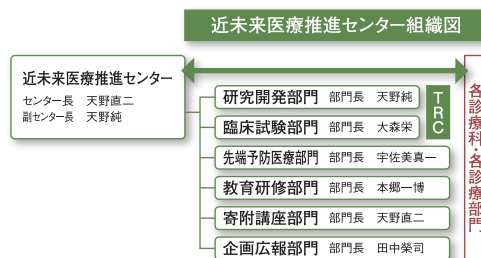
## スタッフの計画的な採用

医師、看護師、コメディカル、事務職員などの採用について、将来のニーズを鑑みながら総合的に検討し、計画的に実施します。

### 【Method 9】

## 保健管理の推進

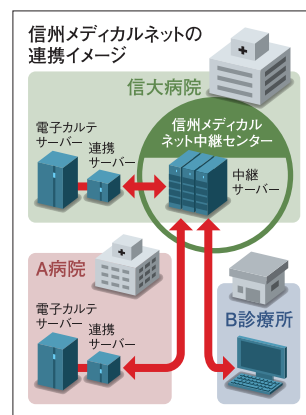
学生や教職員の安全衛生に対する意識の高揚を図り、身体や精神面での不安や悩みを持つ人には専門的立場から援助します。医師、保健師、看護師、カウンセラーなどが一体となり、メンタルヘルスの相談体制や自殺防止対策に向けた体制を確立し、本学の安全衛生管理体制の基盤を充実します。また、職場巡視などを通じて、快適な環境の維持・増進を図ります。



近未来医療推進センターを中心に、近未来医療を世界に発信します。



ドクターヘリで長野県全域に最先端医療を提供しています。



電子カルテを活用した県内医療機関のネットワークを構築することで、長野県全域で効率的な医療を実現します。



理事  
(環境施設／企画調整担当)

鈴木 隆

Takashi Suzuki

学生、教職員が学び、教育・研究・産学連携など多様な活動を展開する豊かな信州「知の森」づくりの基盤となる環境に配慮した安全で安心な、そして国際社会へ飛翔するキャンパス環境を整備します。

また、企画調整担当として、大学運営の効率化・高度化に貢献します。



【サクラ：学名 *Prunus subg. Cerasus*】入学式の頃、美しく花咲く桜が新生を迎えます。本学キャンパス内には数種の桜が植えられています。

## 信州「知の森」 教育・研究基盤の整備

信州「知の森」を豊かな森にしていくために、各キャンパスの特長に留意しつつ、その基盤となる施設の整備を進めます。

厳しい予算事情にあっても、各部署との連携のもとで、施設を有効に活用するとともに、必要な財源の確保に取り組みます。

(Method 1, Method 2)

## 安全・安心の確保

施設の耐震化や老朽施設の改善を継続的に進め、安全・安心の確保に取り組みます。また、災害が発生した場合でも教育・研究機能を維持し、診療機能などが確保できるように必要とされるライフラインの整備に引き続き取り組みます。

(Method 3)

## 災害時の学生、 教職員などの安全確保

大規模地震などによる災害発生時においても、学生、教職員の安全の確保を最優先に対応します。また、近隣住民をはじめとする避難者の方々に支援します。

(Method 4)

## 新たな分野融合を 促進する施設活用

施設のより効率的な活用を進めるとともに、各キャンパス間の連携によるシナジー効果の発揮や新たな分野融合によるイノベーションを促進するとの観点から全学共同利用プロジェクトスペースの活用を推進します。

(Method 5)

## 先進的な「エコキャンパス」づくり

電力需給の逼迫が懸念される厳しい電力事情への対応、省エネルギー対策、地球温暖化対策の観点から各部署における創意工夫などにより、節電などに積極的に取り組み、法令順守ということにとどまらず、社会における先進的な取り組みとしてのエコキャンパスづくりを推進します。

(Method 6, Method 7)

## 学外関係機関などとの連絡調整

本学を取り巻く環境変化に留意しつつ、大学運営に関わる戦略・政策、事務の執行に係る全学調整、学外関係機関などとの連絡調整などに関する業務を通じて、大学運営の効率化と高度化に取り組みます。

(Method 8)

**【Method 1】****戦略的なキャンパスマスタープランの実現に向けた検討**

経営戦略や今後の教育・研究の展開に留意して、効果的で効率的なキャンパス整備を目指して戦略的なキャンパスマスタープランを平成24年度末までに取りまとめることとし、駐車場などの問題も含めて早期に検討に着手します。

**【Method 2】****経営戦略による効果的・効率的な施設整備の推進**

厳しい財政事情の中、施設整備費補助金、長期借入、学内資金などの貴重な財源の有効活用が求められています。キャンパスマスタープランを基本として経営戦略のもとでの効果的で効率的なキャンパスの整備や、戦略的なキャンパスマスタープランの実現に向けた検討を進めます。

**【Method 3】****早急な耐震改修の推進、危険な施設の改修とバリアフリー化の推進**

耐震改修によるIs値(耐震指標)0.7以下の建物の早急な耐震対策を進め、安全で安心なキャンパスづくりを進めます。地域に開放された医学部附属病院、附属図書館、研究施設などの中核拠点機能を整備するの点からも、日常的な調査などを通じて発見された危険な施設を迅速に改修するとともに利用者の視点からバリアフリー化を進めます。

**【Method 4】****より迅速かつ実効性の高い災害対応マニュアルの整備**

災害発生時におけるより迅速で実効性の高い具体的な対応方法を検討し、業務継続計画を策定します。その内容はマニュアル化するとともに、実効性の維持・充実を図るための環境整備を進めます。

**【Method 5】****全学共同利用プロジェクトスペースなど施設の利活用の推進**

各部局と連携して、適切な施設の維持管理による施設の長期利用や利活用に取り組み、施設の最大限の活用と維持管理の最適化を目指します。プロジェクトスペースの利用状況の調査を通じて、その活用を推進します。

**【Method 6】****節電対策、温室効果ガス排出削減の推進**

災害対策本部において決定された節電目標を着実に進めるとともに、温室効果ガス(エネルギー消費原単位において、対前年度比で1%)の削減を進めます。従来の取り組みに加え、各部局のグッドプラクティスを共有・活用し、創意工夫により、これらの課題に取り組みます。

**【Method 7】****エコキャンパスづくりの新たな展開**

全学におけるISO14001の取得達成を踏まえ、その着実な推進と学生、教職員の主体的な参加のもとでのエコキャンパスづくりに関する新たな展開を検討します。

**【Method 8】****内外の関係機関における先進事例などの大学運営への活用**

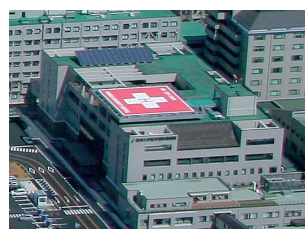
本学の活動に関連する国、他大学、民間団体などの動向に留意するとともに、内外の先進事例、民間企業のビジネスモデルなどを参考にし、これらの情報を大学の運営に活かします。



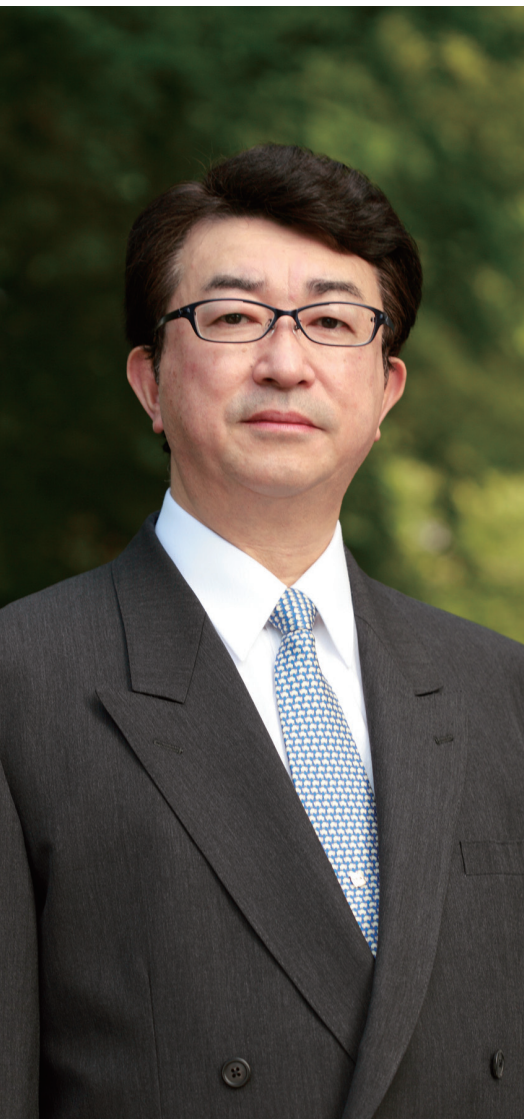
教職員・学生も一体となって取り組むエコキャンパスづくり。写真は環境美化デーの作業風景。



ユニバーサルデザインに基づいた松本キャンパスの総合案内板。照明にLEDを使用するなど、省エネルギーにも配慮しています。



医学部附属病院は、最新の免震構造と太陽光発電システムを搭載し、いかなる場合でも地域の拠点病院としての機能を果たします。



理事  
(特命戦略担当)  
情報戦略推進本部長

神澤 鋭二

Eiji Kanzawa

キッセイコムテック株式会社 代表取締役社長

## ユニバーシティ・ガバナンスの 推進を支援します

本学関係者だけでなく地域・社会を含む公共の利益を最大化することが高等教育機関としての使命であるという基本理念を再確認するとともに、その基本理念に基づいた経営が行われるような仕組み(ユニバーシティ・ガバナンス)づくりを企業経営のノウハウを活用して支援します。

(Method 1, Method 2)

## ステークホルダーの方々と 結ぶ情報インフラを 整備します

学内連携強化を図り、知の継承・創造・蓄積を推進するとともに、各ステークホルダーの方々が本学の知の資産を有効にまた容易に活用していただけるよう、高度情報通信インフラと高度情報システムの整備を積極的に推進します。

(Method 3, Method 4)

## 情報戦略並びに 情報システムの高度化を 推進します

各ステークホルダーの方々に安心して本学の経営をご支援いただくためにもITガバナンス向上に向けた情報システムの高度化は重要な課題です。システムの安全性・信頼性・効率性の確保、特にセキュリティ面においては、機密性・完全性・可用性を高いレベルに維持する取り組みを推進します。

(Method 5, Method 6)

唯一の学外理事として企業経営におけるCSRの重要性を踏まえ、ガバナンス・コンプライアンス・ディスクロージャーの側面から本学独自のUSR(University Social Responsibility)の確立・強化について支援するとともに、情報戦略推進本部長の立場から大学を取り巻くステークホルダーの方々との良好なネットワークおよび関係構築に資する情報戦略を着実に推進します。



### 【Method 1】

## ITガバナンスの確立

ユニバーシティ・ガバナンスの実現において情報システムは、重要な要素です。また、本学を取り巻くステークホルダーの方々のためにも情報システムの安全性・信頼性・効率性を確保していく必要があります。その実現のためにITガバナンス確立を推進するとともに、ステークホルダーの方々との情報共有も積極的に推進します。

### 【Method 2】

## USRの確立・強化の支援

企業経営におけるCSRの重要性を踏まえながら、ガバナンス・コンプライアンス・ディスクロージャーの側面について情報戦略推進の立場から情報システムの積極活用に取り組み、本学独自のUSR(University Social Responsibility)の確立・強化について支援します。

### 【Method 3】

## 高度情報通信インフラの整備

県内全域に分散するキャンパスを持つ特徴を生かし、各キャンパス間のみでなく地域と本学、地域と地域をつなぎ、豊かな知の継承・創造・蓄積を支える地域の基盤としてその機能を提供できるよう高度情報通信インフラの整備を推進します。

### 【Method 4】

## 信州「知の森」高度情報システムの整備

本学の教育・研究・経営を支える高度な情報システムを整備し、知の継承・創造・蓄積をよりレベルの高いものとするとともに、高度情報通信インフラを通じて地域や社会が本学の知の資産を有効に活用することを可能にする、開かれた信州「知の森」高度情報システムの整備を推進します。

### 【Method 5】

## 情報システムの高度化の推進

開かれた高度情報システムの構築と運用においては、研究関連情報や個人情報なども安全に管理でき、障害等にも強く、利用者が増えてもいつでもどこからでも快適に利用できる機能が求められます。仮想化、クラウド化、モバイル化など様々なITノウハウを駆使して高度化を実現します。

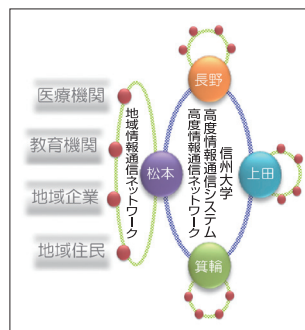
### 【Method 6】

## 情報システムの安全性の向上

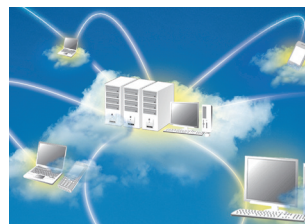
情報システムの安全性の向上は、ITガバナンスの観点からも非常に重要です。既に策定が完了したセキュリティポリシーを業務の仕組みの構築、情報システムの構築のプロセスに組み込んでいきます。また合わせて災害時などの業務継続計画に対応した情報システム機能の強化などを通じてより安全な情報システムの実現を目指します。



高度情報通信インフラと高度情報システムの整備を積極的に行います。



各キャンパスとステークホルダーの方々を結ぶ高度情報通信インフラを実現します。



IT環境の最適化、環境負荷低減のためにも、クラウドコンピューティングの検討が必要になっています。



副学長  
(点検評価／全学教育機構担当)

二宮 晏  
Yasushi Ninomiya

## 評価を活かして ワンランクアップを

国立大学は、目標と計画の達成度を通して業務実績と教育研究活動の成果について評価の目にさらされることになりました。

点検評価の立場から、計画を上回る達成を支援するとともに、評価によって明確化された改善点を、本学の教育・研究・業務運営に反映させることにより、本学のワンランクアップにつなげます。

(Method 1, Method 2, Method 3)

## 自己評価力の向上を

国立大学法人評価をはじめとする各種評価は本学にとって重要なものであります。これをうまく活用し、将来につなげるために、本学教職員一人一人の自己評価力の向上に取り組みます。

(Method 4)

## 共通教育により 学びの基盤形成を

国立大学としては本学にのみ設置された共通教育の実施機関である全学教育機構での一年間は、皆が松本で過ごすため、全学部の学生が学部を横断して学び、交流することができる場です。

また、新生が初めて大学の教育を受ける場であり、勉学に取り組む姿勢が培われる場でもあります。この大事な場においては、全学の教員による協力のもと、学びの基盤として「自ら考え学び、問題を解決する力」を養成します。

(Method 5, Method 6, Method 7)

点検評価では、「評価のための評価」ではなく、「大学を良くするための評価」を目指します。  
全学教育機構では、「人間力向上」を目指す教育を共通教育の重点に据え、学生達が自ら考え学び、問題を解決する力を養います。



【ヒラギ：学名 *Osmanthus heterophyllus*】本来鋭く尖った葉が特徴のヒラギですが、理学部の前には永い年月を経て棘のない葉に育った立派なヒラギがあります。

### 【Method 1】

## 組織的取り組み

学長、理事・副学長の主導のもとで、全学教職員の協力により実施・推進する中期計画の確実な達成に向け、企画総括担当の副学長と共に、各理事、副学長に対してヒアリングを実施し、その上で、進捗状況の検証を年度ごとに行います。

### 【Method 2】

## 自己点検・評価などの実施

自己点検・評価を実施するとともに、平成25年度には機関別認証評価を受審することで、本学の教育研究活動などの総合的な状況に関する評価を行い、改善に役立てます。

### 【Method 3】

## 評価結果の公表

評価結果を公開することにより、公的な機関として大学が設置・運営されていることについて説明責任を果たすとともに、本学に対する社会の理解を深めます。

### 【Method 4】

## 評価に対する意識の向上

全学的な教育・研究を含む業務全般に関する情報の収集・解析・共有に取り組み、「優れた点」「改善すべき点」を明確にし、共有することを通して、本学教職員の評価に対する意識啓発を促します。

### 【Method 5】

## 信大生としてのアイデンティティの醸成

勉学はもとより、サークル活動などを通して、学部を越えた交流により総合大学としての一体感をもてるよう、学生の修学環境を整えるよう取り組みます。

### 【Method 6】

## 新カリキュラムによる共通教育の充実

平成23年度から始まった新カリキュラムでは「学びの基盤形成」を目的とし、人間力向上のために「コミュニケーション力」「言語力」「論理構成力」の3つの力を重視する教育を実施します。今後もカリキュラムについては不断に見直しを行います。

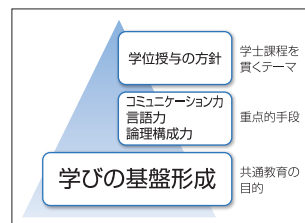
### 【Method 7】

## 教養ゼミ・教養講義の充実

授業は単に知識を得るためだけのものであってはなりません。「自ら考え学び、問題を解決する力＝人間力」を養成するため、教養ゼミでの実践活動や、教養講義での読解力・論理構成力を問うレポートの作成などを推進します。



評価結果を役員、教員、職員で共有し、ワンランクアップにつなげます。



新カリキュラムを推進し、新入生が自ら考え学び、問題を解決する力を養成します。



入学式でのサークル勧誘風景。新入生は全員が松本キャンパスで1年間を過ごします。



副学長  
(教育・学生支援担当)  
副理事  
高等教育研究センター長

小池 健一  
Kenichi Koike

平成23年4月1日に新たな学内共同教育研究施設の1つとして  
信州大学高等教育研究センターが発足しました。  
本センターは信州大学における体系的な  
教育課程の構築を支援するとともに、  
教育の質保証に係る戦略及び教学関連の  
施策実施のための研究開発に  
意欲的に取り組みます。  
わが国の再生を目指す  
強い意志と高い実践能力を  
持つ素晴らしい学生を  
育てます。

【カイノキ：学名 *Pistacia chinensis* Bunge】葉や枝の整った様子から「楷書」に  
因んで名付けられたと言われるこの木は孔子の墓所にも植えられており、「学  
問の聖木」とされています。松本キャンパスの本部前で見ることができます。

## 新たな学術知の創出

国立大学法人には、6年間の中期目標に基づく中期計画と、年度計画の策定が義務づけられています。高等教育研究センターではこれを能動的に捉え、教学関連の中期計画・年度計画の進捗状況の把握や計画の実施支援を行うことで、信州大学の新たな学術知の創出につなげます。

(Method 1)

## より良い教育を目指して

大学の使命は、次世代を担う卓越した人材を育成することです。高等教育研究センターは信州大学がこの使命を全うできるよう、教育の質保証・向上に向けての施策の企画を行います。また、個々の教員の教育方法の改善も、教育の質保証には必要不可欠です。信州大学における教育がより魅力的なものとなるよう、教育の質向上にも取り組みます。

(Method 2, Method 3, Method 4)

## 学生の学びをサポート

大学時代は、勉学をはじめとして生活・経済・就職など、人生の中で多くの問題を抱える時期であり、これらの課題を解消するためのサポートは大学の重要な役割です。学生が最高の環境で勉学に励み、皆が自信をもって社会に向かって巣立つことができるよう支えます。

(Method 5)

## 大学間連携による 教育活動の推進

信州大学におけるICT(情報通信技術)活用による教育への取り組みは20年以上の歴史をもち、多くの成果をあげてきています。これからの本学と長野県全体における教育力の向上に向け、更に大学間連携を活性化させます。

(Method 6)



### 【Method 1】

## 中期計画(教学)の進捗把握と支援

部局や教育・学生支援連携会議を構成するセンターなどとの懇談会を年に数回行い、所掌ベースではなく事業ベースで中期目標・計画や年度計画の実施における課題解決を目指します。

### 【Method 2】

## Grade Point Average(GPA)制度の導入による 大学教育の質保証・向上に係る施策の企画

中期計画に盛り込んだGPAの導入により、成績評価の厳格化と透明性を確保し、履修指導・学生相談の充実などを行っていきます。これらにより、学生自身が「成績に責任を持つ」学習・評価体制を実現し、教育の質保証・向上を目指します。

### 【Method 3】

## 教学関連のデータ集積等を通じた教育手法の開発

Institutional Research(IR:大学の機関調査)の一環として、学内の各種情報システムに散在している教育関連のデータを収集・整理し、統合データベースを構築します。学生の日々の学習への取り組み方や、大学生活への期待と充実度などの情報を統計的に把握・分析することで、外部機関による評価対応だけでなく、データを活用した教育手法の開発、大学経営や教育の改善につなげます。

### 【Method 4】

## 全学的なFDの企画と各部局におけるFDの実施支援

従来の大学教育では、大学の授業は教員の専門領域が一方向的に話されるのみでした。しかし、社会構造全体が大きな変革期を迎えている中、豊かな教養と深い専門性を身につけた人材の育成や様々な社会的課題の解決への貢献など、大学に対する期待と要請はきわめて大きくかつ多様となっています。修学支援・メンタルヘルスなど、社会や学生のニーズを踏まえた大学教育を推進するFDに取り組みます。

### 【Method 5】

## 学生支援体制の充実

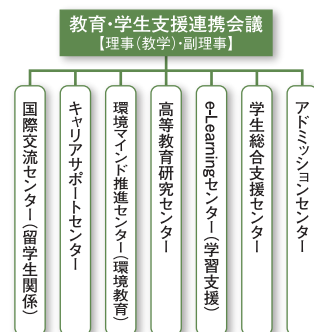
学生総合支援センター、キャリア・サポートセンターなどで構成する教育・学生支援連携会議で学生の生活・経済・就職などに関わる課題を共有し、その解決を図っていきます。

新たに、学生総合支援センター内に学生相談室を設置し、総合健康安全センターと連携し、メンタルヘルス支援を積極的に行います。

### 【Method 6】

## 県内大学連携による教育力向上

信州大学を含む長野県下の8大学は『高等教育コンソーシアム信州』を形成しています。加盟大学の個性を活かしながら、単位互換や遠隔授業を通して教育研究資源を有効活用し、学生教育の成果と教育研究の還元により、教育力の向上を目指します。また、この連携を不断に見直し改善を行うことで、本学をはじめとして全ての加盟大学における教育の充実を促進します。



大学一丸となって、学生支援体制を整備しています。



遠隔講義システムを利用した県内外大学とのFDフォーラム実施風景。



高等教育コンソーシアム信州では、最先端ICTを活用した高精細画像による遠隔授業を実現しています。



副学長  
(企画総括担当)

久保 惠嗣  
Keishi Kubo

## 中期目標・中期計画の 着実な実行を 支援していきます

教育(人材育成)、研究、社会・地域貢献、国際交流・貢献、大学運営などを実施していくために、内部質保証システム・PDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルの確実な実行が必要です。Planは既に中期目標・中期計画として作成しました。今後、Do、すなわち、実施・実行が求められています。それぞれの計画を担当している理事・副学長を補佐・協力して、確実に実行されるよう支援していきます。

(Method 1, Method 2)

## 将来の教育・研究組織・ 業務体制の在り方を 検討します

大学の最も重要な機能である教育(人材育成)、研究のより一層の推進や質的向上を図る上で、社会情勢、社会や地域からの要請、他大学の実情などを踏まえた教育の在り方や研究組織およびこれらを支える業務体制の見直しは欠かせません。そのために、現状の的確な把握と将来を見据えた不断の改善を検討します。

(Method 3, Method 4, Method 5)

## Vision 2025の策定を 支援します

これからの本学を担う若い人材を大いに活用し、新たな発想を取り入れて、本学の将来を見据えた「Vision 2025」の策定を支援します。

(Method 6)

信州大学の更なる発展のため、第2期中期目標・中期計画の着実な実行を推進します。

時代の声を聞きながら、さらに、時代に先駆けて、教育(人材育成)、研究、社会・地域貢献、国際交流・貢献、大学運営に関する組織、業務体制などの見直しを行います。

若手人材を活用し、彼らの新たな発想を将来Visionの策定に活かします。



【シナノキ：学名 *Tilia japonica*】長野市の木にも指定されているこの木は、長野県の古名「信濃」の由来であるとも言われており、工芸品の材料としても盛んに利用されています。

**【Method 1】**

**進捗状況を踏まえた年度計画の策定**

中期計画を達成するための年度計画について、点検評価担当の副学長と共に、年度中間の進捗状況や達成見通しを確認した上で、変更点などを精査し、各中期計画を受け持つ理事・副学長の次年度計画の策定を行います。

**【Method 2】**

**進捗状況の共有と実施支援**

Method1により得られた年度計画の進捗状況や各年度実績の評価結果を把握し、それらの共有化に努め、協力体制を構築することにより、中期目標・中期計画を達成するため具体的な方策を呈示し、実施に向けた支援を行います。

**【Method 3】**

**社会情勢、社会からの要請などの把握**

各種政策、審議会答申などからの情報収集のみならず、地域社会、大学内外のサポーターなどから、幅広い情報収集に努め、社会情勢、社会からの要請などを把握・整理し、かつ、それらの情報の共有化を図ります。

**【Method 4】**

**国内外の大学における情報の収集と評価**

国内外の大学における情報を幅広く収集し、評価を行います。特に、本学と同レベルの国内の大学を中心に、教育(人材育成)、研究、社会・地域貢献、国際交流・貢献、大学運営の各分野における取り組み状況を収集・整理・評価し、本学の各分野の見直しの参考にします。

**【Method 5】**

**教育・研究組織・業務体制の改善・見直し**

Method3, 4により得られた情報や現状の的確な把握・分析を行い、各分野における必要な組織・業務体制の改善を促します。特に、教育・研究組織やこれらを支援する業務体制については、短期的・長期的な視野から、不断に改善し、見直しを図ります。

**【Method 6】**

**若い力の有効活用**

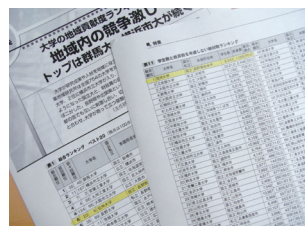
これからの本学を担っていく若手教職員の自由で闊達な意見交換を促進し積極的に活用します。これらの意見交換を踏まえて、教育(人材育成)、研究、社会・地域貢献、国際交流・貢献、大学運営の各分野での将来像を見据えた「Vision 2025」を策定します。



大学の将来を見据えて策定したVision 2015 Action Plan。現在は既に次なるVision 2025に着手しています。



改革が加速する大学経営の分析は、大学ランキング、大学の實力など、メディアでも大きく取り上げられるようになりました。



「大学の地域貢献度ランキング」(平成22年度日経グローバル調査)で、信州大学は総合6位、絶対数では1位と高い評価をいただいています。



副学長  
(広報／情報担当)  
附属図書館長

笹本 正治

Syoji Sasamoto

## 広報は 信州「知の森」の顔づくり

信州大学には個性豊かな学生や教職員があふれています。その一人一人が本学の顔であり、全体で信州「知の森」をなします。全学一体の「オール信大」の意識に立って、本学ならではの教育・研究・地域貢献活動などをわかりやすく発信します。

(Method 1, Method 2, Method 3, Method 4)

## 情報は絶えず 発信し続けます

設備としての情報網は安定的、かつ強靱でなくてはなりません。システムは利用者にとっての利便性が求められます。知の森の木々が巨木に育ち、森がより大きくなるように、特命戦略担当理事と共に、しっかりとICT(情報通信技術)の基盤を作ります。

(Method 5, Method 6, Method 7)

## 図書館は 知の集積を進めます

教育や研究は過去の知を基礎にしてなされます。知を集積・保存・共有化するため、図書館においてはとりわけ電子化を進め、世界中どこからでも平易に利用していただけるようにします。

(Method 8, Method 9, Method 10)

PLAN“the FIRST”によってつくられる信州「知の森」の

魅力を内外に向けて発信します。

森の木々の生命を保つために

必要な情報は、必要な方が

いつでも快適に使えるようにし、

決して滞らせません。

附属図書館長として知の集積と

保存、提供に務め、次世代を作る

新たな知が芽吹けるように、

またすでにある知が

成長できるようにします。



【ニワウルシ：学名 *Ailanthus altissima*】別名神樹とも呼ばれる、漢方としても親しまれているこの木は、松本キャンパス内の随所で大木を見つけることができます。

### 【Method 1】

## オンリーワンを易しく伝えます

山岳科学やカーボン科学など、本学ならではの独自性ある最先端の学問成果を、一般の方に理解いただけるよう、視覚的表現も用いながら広報します。

### 【Method 2】

## 地域と歩む広報を強化します

本学は地域に開かれた大学です。地域から必要とされ、そしてこれまで以上に地域から愛され、世界が認めてくれる地域連携を進展できるよう、多彩な事例とその意義を発信します。

### 【Method 3】

## 学内広報を充実させます

本学は学部ごとに独自の歴史を持っていますが、ホームページなどを通じて、それぞれのすばらしさをアピールし、誇りを共有することにより、学生・教職員の一体感を強め、より大きな力を出せるようにします。また、教職員にはより読みやすい学内メールマガジンを送り続けます。

### 【Method 4】

## 業務効率をアップします

限られた予算と人員とで最大の広報効果が発揮されるように、ガイドラインやマニュアルにのっとりながらも、常に新たな方策を探求し、費用や人材を最大限に有効活用します。

### 【Method 5】

## 情報システムに非常事態を作りません

情報は途絶えることがあってはいけません。快適さは当然のことながら、運用においても非常時マニュアルの作成と堅牢なシステム構築を行い、情報を中断させないようにします。

### 【Method 6】

## ICTを通じて地域連携を進めます

高度情報通信インフラを通して地域と結びつき、信州大学の情報網が長野県に生きる人々の情報ネットワークの生命線として機能するようにします。

### 【Method 7】

## 情報面でも「安全・安心」を

ホワイトスペース特区でのエリアワンセグ放送の研究が既に開始されています。これらを通して、信州大学の学生や教職員のみならず、広く国民の安全・安心に情報面から寄与します。

### 【Method 8】

## 電子化の推進で国際貢献に努めます

図書や電子ジャーナルなどを蓄積するのみならず、学術成果物の電子化などを通して世界に発信し、新たな知の生産に貢献します。

### 【Method 9】

## 積極的に教育の場となります

学生の教育上でも図書館の役割は大きなものがあります。図書を利用するの豊かな教育を推し進めるため、教育の場を提供するだけでなく、新入生セミナーなどに図書館員も積極的に参加します。

### 【Method 10】

## 地域に不可欠な図書館になります

長野県遺跡資料リポジトリ・近世山岳関係データベースなど、地域と結びついた書籍や資料のデータ化に努めるとともに、地域の図書館との連携を積極的に推進し、県の中核図書館としての機能を果たします。



広報誌「信大NOW」やWEBサイト「知の森」などで、オンリーワンの魅力、地域貢献、地域連携の事例などを特集。今後も、本学の教育・研究・地域貢献の特色を訴求していきます。



エリアワンセグ放送は携帯電話などの端末で、大規模災害時など緊急時の通報・伝達を行います。(画像はイメージです)



ブラウジングルームも整えた快適な図書館。

# 信州に広がる5つのキャンパス

「信州は、我らのキャンパスだ。」を合言葉に、豊かな自然環境のもと、地域に根ざした総合大学の特色を活かし、分野の枠にとらわれない文理融合型の教育研究に力を入れています。この信州「知の森」から、意欲溢れる学生や研究者が、世界を舞台に羽ばたいています。

## 松本キャンパス

- 人文学部
- 経済学部
- 理学部
- 医学部
- 法科大学院
- 全学教育機構
- 医学部附属病院



松本キャンパス全景

## 長野(教育)キャンパス

- 教育学部



長野(教育)キャンパス全景

## 長野(工学)キャンパス

- 工学部



長野(工学)キャンパス全景

## 南箕輪キャンパス

- 農学部



南箕輪キャンパス全景

## 上田キャンパス

- 繊維学部



上田キャンパス全景

## おわりに

森は様々な動植物の営みを支え、またその営みが森を豊かにするように、信州大学を構成する学生、教員、職員、役員それぞれが「役割＝なすべきこと」を自覚し、自身の能力・資質を生き生きと発揮できるような信州「知の森」を創り上げたいと考えます。そのための行動指針とそれを実現するための具体的な手法を作成しました。

学長の主導のもと、役員はチームワーク良くPLAN“the FIRST”に取り組み、プランの達成に努めます。

本学構成員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

信州大学役員会





【学章(コマクサマーク)について】

コマクサは高山植物の女王といわれるほど気高く、信州を象徴する花です。  
信州大学では昭和25年に襟章モチーフとなり、多くの人に親しまれてきました。  
平成22年3月、学章として制定しました。



発行・編集／信州大学役員会

お問い合わせ先：信州大学経営企画部経営企画課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 TEL:0263(37)2116 FAX:0263(37)3484

E-mail:kkikaku-kikaku@shinshu-u.ac.jp URL:<http://www.shinshu-u.ac.jp>